

義務教育学校・明野地区準備委員会 第8回 PTA 部会議事要旨

- 開催日時 令和4年5月12日（木）午後6時30分～8時15分
- 開催場所 明野いきがいセンター 研修室
- 出席者 筑西市義務教育学校・明野地区準備委員会 PTA 部会委員15名
【教育委員会】鈴木部長、島村次長、池田参事兼指導課長、市塚義務教育学校整備推進課長、その他事務局職員（義務教育学校整備推進課）
- 会議経過（概要）

1. あいさつ【武井部会長】

2. 報告

（1）前回の振り返り

①スクールバスのこれまでの検討状況について

スクールバスの乗車対象者について、現在の各小学校と統合後の通学距離を比較したところ、現在3kmを超えて通学している児童がいないこと、統合後は約半数の児童が3kmを超えて通学することから「道のりでおおむね3km以上となる児童」とした。（事務局）

②前回の部会について

利用対象者を絞っていくにあたり、行政区単位か通学班単位か、また、道のり3km未満(付近)の経路の確認をしていただいた。

（2）本日の協議事項について

部会後、事務局にて道のり3km付近に該当する行政区の児童全員の自宅から昇降口までの経路を計測し、その結果を基に以下のとおり分類分けをした。

A：全員の通学距離が3km以上（バスの乗車対象）

B：同じ行政区で3km以上と3km未満が混在する地区（バスの対象かどうか協議が必要）

C：全員の通学距離が3km未満（実質2.5km未満のため徒歩通学）

⇒Bの地区についての取扱いについては、今後検討していく必要があるが、協議を進めていくためにも、本日は、事務局で想定した乗降所や運行ルートについて検討いただきたい。

3. 議事

（1）スクールバスについて

①開校までのスケジュール⇒〈委員了承〉

事務局としては、今年度9月に1回目の保護者説明会を予定しており、逆算すると、運行ルー

トや乗降所など運行計画のたたき台を8月までには固めていきたいと考えている。8月までに完全なものを作成することは難しいと思うが、保護者説明会での意見等を踏まえて、随時運行計画案を修正していくようなスケジュールで考えているので、開校までタイトなスケジュールになるかと思うが、ご協力願いたい。(事務局)

②運行ルート及び乗降所候補地について

18カ所を提示し、乗降所までの安全な経路等の確認作業を行った。

「道のりでおおむね3km以上となる児童」の利便性を考慮し、五葉学園から3km以上の地点の中から乗降所までの経路や乗降所内の乗降の安全を確保できる場所を選定し、それに合わせた運行ルートを想定した。

③広域連携バスの併用について

車通りが非常に激しく、バス停までに危険な道を1列で歩いていくなど、低学年には課題も多く、バス停の場所も狭いことから児童の安全確保が難しく、スクールバスの乗降所としての使用は難しいと考えていた。しかし、年々利用者が増加していることから、より利用価値を高めるため、広域連携バスの担当課から小学生の混乗利用について検討の打診があったため、スクールバスの乗降所として利用すべきか協議願いたい。

◆委員意見◆

②運行ルート及び乗降所候補地について

- ・Bの地区について、事務局で提示した「3km以上の地点に設置された乗降所まで歩けば乗降できる」という考え方も分かるが、一方でBの地区は、明野五葉学園から離れた乗降所まで歩くことになり、雨の日は学校まで送迎する家が多くなると思う。
- ・運行計画を固めるべき時期なのも分かるが、児童の安全確保を優先し、黄色の地区にも乗降所を数カ所増やしたルートを改めて事務局で検討することは難しいのか
- ・例えば、幼稚園バスのように、ドア to ドアにすれば一番良いのかもしれないが、現実的にそれは難しいことを踏まえると、徒歩で通学する児童が出てくるのは避けられない。そう考えると、徒歩で通学する児童の安全のために、道路等を整備していくことはもちろんのこと、バスに乗る児童に対しても、乗降所までの経路や乗降所内での安全が確保できる場所を優先に選んでいくべき
- ・学校付近の徒歩・自転車・送迎車などの動線の整理は、開校後も考えていかなければならない課題になるのではないか。

- ・寺上野のBの地区について、一番近い乗降所が上野小であるが、上野小に行く時間と五葉学園まで行く時間に大差はないので、車で送迎してしまう家庭がほとんどで、実際にそのような話を聞いている。乗降所まで歩くか、学校まで歩くか、また保護者送迎とするかは、各家庭の判断で、歩く児童のことを考えて、危険箇所のリストアップを進めていった方が良い。
- ・通学路と想定している地区の中で、通学路として危険なルートであり、他のルートでの回避が難しいのであれば、バスの乗車対象に振り分けるなどの対応案を考えていくべきである。
- ・安全面についての話題も出るが、例えば片道 2.5 kmの距離をランドセルを背負って通学するとなると、特に夏場で下校時間は熱中症の恐れもあるため、健康面からの配慮も必要だと思う。また、この場で検討している内容について、対象となる保護者に情報がいきわたっていないので、情報発信の方法や頻度も検討していく必要があると思う。
- ・大人が考える児童の安全が、児童にとっての安心に直結するわけではないと思う。開校後の環境の変化で、負担を感じる児童は必ずいると思うので、開校後も心のケアに配慮してほしい。
- ・乗降所の安全性については、事務局で十分に検討していただいているようなので、徒歩の児童の通学路を今後この部会で実際に歩いて、確認していく必要がある。
- ・Bの地域に乗降所を増やすことができれば、安全性は確保できる。一方で、乗降所を増やすことで、運行時間が長くなり、「A：全員 3 km以上」の児童の集合時間が早くなるデメリットも考えられる。最終的には、丁度良い落としどころで決定していくしかないが、個人的には安全面を重視して、Bの地区に乗降所を増やしてほしい。
- ・Bの地区の中でも、乗降所まで歩く児童、保護者送迎となる児童、徒歩通学する児童と各家庭で分かれてしまう恐れもあるのではないかな。
- ・開校後、バスを運行して、多少のルート変更等が可能であるなら良いが、契約後だと、それも難しいのではないかな。
- ・中根から有田の乗降所まで、徒歩で10分以上かかる。また、河川（観音川）を横断する必要がある、天候によっては、河川の増水の危険性がある。そのため、中根にも乗降所を設置しても良いのではないかな。
- ・大村小学区のBの地区（新井・倉持）は徒歩通学で良いと思う。同様に竹垣も徒歩で良い。下川中子の北西の2名は乗降所まで遠いが、ルートを考慮すると仕方がない。

今回提示した 18 カ所の乗降所について

通学距離で 3 km 以上の児童の利便性を優先に、明野五葉学園から道のりで 3 km を超える地点で、安全が十分に確保できる場所を選んだ。

選定の過程の中で、B の地区の中でも、乗降所を探したが、乗降所としての機能を果たせる場所が見つからなかった経緯もある。B の地区の中にも 3 km を超える児童はいるので、良い候補地があれば情報提供いただきたい。（事務局）

⇒運行ルート及び乗降所については、今日の意見を事務局でまとめていただき、次回以降改めて検討を進める（部会長）

③広域連携バスの併用について

- ・一般の方が利用することが前提のため、例えば季節によって児童が乗車できない等の課題も生じるのではないかな。
- ・広域連携バスは、村田地区や三ツ谷で利用できれば、バスの台数を減らせて良い。しかし、デメリットとしては、1 つ目に、一般の利用者が定かではないため、児童が乗車できない恐れがあること、2 つ目に、確実に座って利用できる保証がなく、バス内の安全確保が難しい。
- ・運行本数やダイヤを改正することで、児童が乗車できる環境を整えることが可能であれば、併用することも良いのではないかな。
- ・バス停での児童の安全確保が不十分であるとすれば、併用は避けるべき。また、時刻表に合わせるとなると、特に下校時に児童がばらばらとバスを待つことになるため、スクールバスで統一した方が良い。
- ・例えば、村田のバス停で乗降することは、安全面で難しいとすれば、村田小学校まで回ることが可能であれば、併用を視野に入れても良いのではないかな。

⇒広域連携バスのバス停に行くまでの道も危険なことから、通学路として指定するのは難しい。
村田小をバス停として加えることについては、P T A 部会の意見として担当課と協議していく。
（事務局）

⇒広域連携バスについて、安全面を考慮すると、今のバス停での併用は難しいが、例えば、村田小をバス停に加える等十分に安全を確保できる方法があれば、併用も可能である。（部会長）

4. その他

(1) 総務部会の進捗状況について

明野五葉学園の後期課程の生徒が着用する制服について、変更したほうが良いという意見が多かったことから、変更する方向で検討を進める。保護者アンケートも実施する予定である。

(2) 学校運営部会の進捗状況について

「明野未来デザイン科」について、アントレプレナーシップ教育や地域学習を目玉として検討している。地域学習については、学校現場だけだと、地域のことも把握しきれない面があるので、委員の皆様にも今後ご意見を伺いたい。

(3) 次回の会議予定：令和4年6月23日開催予定

以上